

とうきょうすくわくプログラム 活動報告書

テーマ 光

園名	もりのおがわ保育園
日時	令和6年12月21日
実践者	新里早苗（主任）
対象年齢人数	3歳～5歳11名

目的

影が自分の動きと連動する面白さや、光を通して影かできる不思議さを体験する。

環境をデザインする

○準備物

プロジェクター/懐中電灯/スクリーンロール
体全体が映る様に、壁一面にスクリーンロールを配置

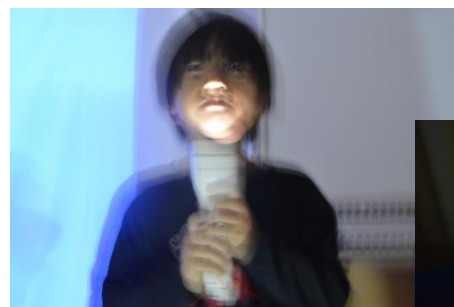
探求活動を実践する 影

○活動内容

プロジェクターの光を使って、自分の体を動かし光・影の連動を楽しむ。

◇子どもの様子

強い光の間に自分が入ることにより、壁一面に大きな影ができることを楽しんでた。しばらくすると、懐中電灯をもちより、手を映して影ができることを発見。各クラスから懐中電灯を集める。また、しばらくすると、影に色がつかないかを探求し始める。井型ブロックや、人形、レゴブロックを映し始めるが、光は黒いまま。しかし、A君が光ブロックをあてると、うっすらと色がつく。懐中電灯を遠くしたり、近くしたりと実験を始めた。



振り返り・気づき

振り返り

影に色を付けるために、子ども達が、様々な物で実験しはじめる様子がとても興味深かった。試行錯誤したが、きれいに色はつかなかった。私も答えがわからないので、共に実験をしていく対応となった。子どもが、懐中電灯がほしいと言いだしたのは、大きな光が思うように使えなかったから（年長児が独占）できないことを工夫してできるようにする過程が大事だと感じた。